

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國 其他

對

荒木 貞夫 其他

宣誓書供述書

供述者 松木

俠

自分儀我國不行ハレル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上記ノ  
如ク供述致シマス

Def, 100, #2526

Exh, ♦

私、松本俠ハ現在東京都世田谷區深澤町四丁目一、七三一番地三住ンデ居リマス  
私ハ滿洲國ニ於テ左ノ如キ經歷ヲ有シマス

一昭和七年（一九三二年）六月 満洲國法制局參事官

一昭和十年（一九三五年）四月 總務廳秘書處長

一昭和十二年（一九三七年）六月 總務廳法制處長

一昭和十三年（一九三八年）三月 參議府秘書局長

一昭和十五年（一九四〇年）五月 總務廳次長

一昭和十八年（一九四三年）六月 審計局長官

一昭和十九年（一九四四年）十月 大同學院長

一昭和十九年（一九四四年）十月 同次長トシテ星野

私ハ右經歷ガ示ス通り、總務廳秘書處長、國法制處長、同次長トシテ星野

私ハ右經歷ガ示ス通り、總務廳秘書處長、國法制處長、同次長トシテ星野

直樹總務廳長ノ直接ノ部下トシテ總務廳ノ事務ヲ管掌シテ居リマシタ。

(+) 滿洲國ニ於ケル總務廳長ノ地位ハ國務總理大臣ヲ補佐シ、總理大臣ノ直

接管轄スル總務廳ノ事務ヲ統轄スルニ在ルノデアリマス。從テ總務廳長

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

ハ國務ニ付キ決定ノ權限ヲ有シマセん。唯法令ニ依テ委任セラレタル輕

之ヲ行フコトハ出來マセンデシタ。

□ 昭和十一年（一九三六年）暮、大連總務廳長が辭任シソノ後任トシテ星野

氏力總務廳長ニ任命サレタ理由ハ第一ニ滿洲國モ建國以來約五年ヲ経過シタノデ何時迄モ總務廳長ヲ日本内地ヨリ輸入シテ來ルト云フ時代ハ既ニ過ギ去リ、滿洲デ働イテキル者ノ中カラ選ブベキデアルト云フ點ト。第二ニ滿洲國モ治安第一主義ノ時代カラ愈々經濟建設ノ時代ニ入ツテ半タノデ、財政經濟ニ明ルイ人力總務廳ノ中心ニナツテ國務總理大臣ヲ補佐スルコトカ必要デアルト云フニ在ツテ、ソコデ滿洲國政府ノ官吏ノ中デ財政經濟ヲ擔當シテ居ツタ星野氏ガ前任總務廳長及國務總理大臣ノ推

テ財政經濟ヲ擔當シテ居ツタ星野氏ガ前アリマス。

○星野廳長ニ依ツテ新ニ總務廳長ニ任命サレタノデアリマス。

○ソレ迄ノ歴代總務廳長モ良ク其ノ権限ヲ守リ張國務總理大臣ノ指揮ヲ仰ギ其ノ決裁ヲ待ハ嚴格ニ其ノ職務權限ヲ守リ張國務總理大臣ノ指揮ヲ仰ギ其ノ決裁ヲ待ツテ事務ヲ執ツテ居リマシタ。勿論總理大臣ノ裁決ノ代理ヲ爲スガ如キハ私ノ知ル限り一度モアリマゼンデシタ。

○星野廳長ノ下ニヨ本人及満人ノ次長ガ各々一人アリ、ソレハ<sup>事務ヲ分</sup>事項ヲ掌リマシタガ、重要ナ事項ニ付テハ常ニ兩次長即チ私ト滿系次長<sup>事務ヲ掌リマシタ</sup>。滿系次長ニ相談ナシニ重要ノ谷次郎氏ヲ呼ンデ協議シテ決定シマシタ。滿系次長ニ相談ナシニ重要官吏ノ登用ヲ常ニ心ガケテ居リマシタ。ソレデ總務廳長ノ秘書官ヤ、滿

瑞廳次長、同統計處長、同官房庶務科長等總務廳ノ重要ボストガドシ  
日系カラ瀬系ニ代ツテ行キマシタ。ソレデ日本人ノ一部ニハ星野廳長ハ瀬  
人ノ意向ヲ尊重シ過ギルト云フ批難ノ聲サヘ起ツタ位デアリマス。

(六)

從來薦任官（奏任官）及委任官（判任官）ノ俸給ニ付テハ日滿人ノ間ニ若干ノ差別ガアリマシタ。ソレハ生活様式ガ違ツテキル爲メ日本人ハ滿人ヨリモ經費ガ嵩ムノデ下級官吏ハ滿人並ノ給與デハ生活ガ困難ナ爲メ日本人ニハ俸給ノ四割又ハ八割ニ相當スル額ヲ手當トシテ支給シテ居ツタノデアリマスガ一九三八年星野廳長ハソノ差別ヲ徹廢シテ

(七)

關東軍カラ總務廳ニ命令スル様ナコトハ勿論絕對ニアリマセンデシタガ只時ニヨツテ關東軍カラ希望ノ意見ガ傳ヘラレタコトハアリマシタ。斯ル場合星野廳長ハソレゾレノ政府機關ニ協議シ總理大臣ノ意向ヲ伺ヒ、ソノ指揮ノ下ニソレゾレ必要ナ處置ヲシマシタ。併シ關東軍カラ示サレタ希望意見ト雖モ、適當デナイト考ヘタ場合ニハ之ヲ行ハナカツタコト勿論デアリマス。例へバ、昭和十二年（一九三七年）六月ノ行政機構改革ノ時ニ、從來ノ軍政部ト民政部ノ警務司トヲ併セテ治安部ヲ作ツタガ、ソノ次長トシテ關東軍カラ軍人出身ノ者ヲ充テタイトノ希望ガ出生マシタガ星野廳長ハ我々ノ意見ヲ聽イテ關東軍ノ意見ヲ容レズニ文書出芽ノ事務官朝氏ヲ推薦シ、結局同氏ノ任命ヲ見タノテアリマス。

(八) 星野廳長ハ常ニ滿洲國民ノ生活安定、經濟生活ノ向上ニ意ヲ用ヰテ居リマシタガ、廳長就任後半年ニシテ日本文事變ガ起リ、繼イデ、歐洲戰爭トナリ、追々物資ガ缺乏シテ來タノデ、經濟統制ガ漸次強化セラレテ、國民ガ苦痛ヲ感ズルノヲ心配シテ常ニ慎重ナ態度ヲ以テ臨ミマシテ

タ。ソレデ滿洲國カラ日本其他ニ輸出スル食料其他ノ物資ハ成ルベク  
高價ニ引取ツテ貰フヤウニ日本政府其他ニ交渉シ。ソノ代り滿洲國ニ  
輸入スル生活必需品其他ノ物資ハ成ルベク有利ニ且出來ル文ケ多クス  
ルヤウ常ニ努力ヲ續ケテ居リマシタ。又他ノ物價へ造カ高騰スルニモ  
不拘々滿人大衆ニトイテ最モ必要ナ鹽ノ如キハ寧ロ價格ヲ下ゲテ人民  
ニ配給スル、等ノ事モアリマシタ。

昭和二十二年（一九四七年）九月

日於東京

供述者 松木俠

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於

立會人

右田

政

夫

書  
フ

宣

書

書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述べ何事ヲモ默秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ

署名捺印

松

本

夾